

第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、平成26年度 第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について次のとおりお知らせします。

1. 日時

平成26年9月26日(金曜日) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 主な意見

- 国有林材の委託販売(一般公売)は概ね順調。製材品ではサンギ、押し角が順調。一方、建築用材の動きは全般的には鈍い状況であるが、道東方面においては公共事業に伴う建築用材の引き合いもあり、これに係る原木需要が12月頃まで見込まれるとの情報もある。
- 製材工場の原木在庫量には多少のバラツキ(カラマツ小径木には不足感)はあるものの、概ね2ヶ月程度で推移しており、今後においても当面継続していくものと思われる。
- 今後のバイオマス発電事業では原料調達(集荷)が課題であり、立木のシステム販売などにより国有林からの安定供給をお願いしたい。
- 自社製材工場(トドマツ)の原木消費量、入荷量ともに順調。他の製材工場も原木調達は順調な模様。9月の集中豪雨による、国有林(石狩署、胆振東部署)の素材生産の遅れや林道被害などが今後の原木出材に及ぼす影響を懸念しており、必要に応じ代替地の検討など当初計画量の出材をお願いしたい。
- 苫小牧港では輸入(欧州)材が大幅に増えているが荷が動いていない状態(対前年同月比:約150%)。今後、多少の影響はあるかもしれないが、国産材の普及のためにもここで道産材の供給を絞らないことが重要。
- 今年は原木価格が高く、春先から民有林材も出材され丸太の入荷が順調に推移し、直近での原木在庫に不足感はない。現在の道内カラマツ製材工場では、製品受注残が1ヶ月程度と順調であるが、引き続き地域別の出材量など注視する必要がある。
- 道内カラマツの需要先は小径木がラミナ、大径木が合板となっているが、今後、増加が見込まれる大径木の付加価値向上のためにも、ラミナ製品の開発などが急務である。また、トドマツ人工林材の未成熟材は乾燥によるねじれが生じ易いため、歩留まりの高い製品の開発を行うためにも引き続き乾燥技術の向上が必要。

- 9月の集中豪雨により、素材生産事業そのものには若干の遅れが生じている程度であるが、今後、林道等被害による出材への影響が懸念されるため、早期の林道等の復旧が重要。
- 地域により木材需要に温度差はあるものの、針葉樹パルプ材は木質バイオマス発電向け、広葉樹パルプ材は上質紙向けの生産が増える等、生産された原木は順調に動いている。一方、カラマツ合板用材は厳しい状況にある。民有林材においても安定供給は重要と認識しているものの、出材量にバラツキが出てしまうので、多目に出材された場合であっても需要者（製材工場等）には安定的な受け入れをお願いしたい。

4. 検討結果

道内の木材需給状況や各委員の発言を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないとの意見集約が得られた。